【論点】

アブストラクト（Amazon掲載）より…

「社会の悪化における教育的不均等の影響の分配理論を発展させる。広範囲に及んだ２５以上の先進国における不均等と社会的態度の理論的批評や大規模分析に基づき、この研究は教育の不均等が社会や組織の信用、市民の協力そして法のルールといった社会的結合の重要な側面をむしばんでいることを明らかにしている。ヨーロッパにおける異なるモデルの生涯学習や知識社会の比較研究を通して、本書では平等主義教育システムがいかに経済競争と社会的結合を促進することができるかということをあきらかにしている。近年の政策が国の総計の技術レベルへ関心を持っているのに反して、この本で国が社会的結合においてどれだけ教育という問題をもっているかということではなく、どのようにしてそれが分配され、その人々たちがどのように協力的価値が学んでいるかということについて議論している。」

⇒本書では、教育の不平等が社会的結合を悪化させているということを明らかにすることをプロセスに、平等主義教育システム（本書ではcomprehensive educationを具体的に挙げている）が社会的結合にとっては必要なものであるということを提言している。

ＢＵＴ

本文より

…Its primary concern is with social cohesion at the societal level, rather than at the level of individuals and small groups and communities, …

「本書の主な関心は、個人や小さな集団、共同体のレベルではなく、社会的レベルでの社会的結合である。」

とある。

しかし、冒頭の通り、近年のグローバリゼーションにより、伝統的な国家の枠組み、ナショナル・アイデンティティの弱体化が起こっている。

ここでの社会的結合は国家単位での結合の復興なのか、もしくはグローバリゼーションにおける新たな社会的結合を考案することなのだろうか。

（テキストの内容は今後読み進めていくが、イントロダクションを読んだだけでは、一国家の政策レベルにとどまっているように感じられる。）

↓

**【論点】**

**グローバリゼーションにある現代の社会的結合を考察する際に、「社会的レベル」とはどのようなレベルを指すものだろうか？どのレベルをマクロな視点というべきだろうか？**